ひたちとアジア

第76号

2026年(令和8年)10月

発行：ひたちとアジアの文化交流をすすめる会　広報部会

令和８年度 総会開催

今年度のテーマ国は韓国

令和８年度「ひたちとアジアの文化交流をすすめる会」総会は、日立シビックセンター5階において５月16日（土）に開催されました。

総会では、前年度の事業報告が行われました。決算報告につきましては監事の阪井薫さんと大内勇雄さんが、総会に先立ち会計監査を行い、令和７年度の会計処理が適正であることを確認し、大内さんから総会にて報告され承認されました。続いて今年度の事業計画が、承認されました。

活動趣旨につきましては、従来通り会員の高齢化等を踏まえ、今後の活動の方向性を定め、市民を巻き込み、アジア諸国の文化を伝える事業展開について計画するとともに、新規会員の参加や、より多くの市民及び市内在住外国人の参加を増やせるよう、会員が主体となり活動することになりました。

また、今年度は会の設立から30年を迎える節目の年であるため、それを踏まえた事業を展開することになりました。活動テーマ国は昨年度後半の定例会で検討してきた「韓国」となりました。従いまして研修旅行については、テーマ国の「韓国」に関連する内容で研修チームが中心となり検討することになりました。料理サロン事業についても、テーマ国の「韓国」に関連する内容で料理チームが中心となり検討することになりました。広報紙は年２回の発行としました。

役員につきましては、前年度と同様会長小澤紀夫、副会長菊池和雄さんと小川朝子さん、監事は阪井さんから辞退したいとの申し出があり、大内勇雄さんと大槻恵子さんになりました。

総会終了後のアジア文化講演会は、「いま、韓国を知ることの意義とは－日韓の温故知新－」と題し、茨城キリスト教大学文学部教授の染谷智幸先生から有意義なお話をしていただきました。

（小澤記）



総会の様子